

第18回 宇和島市立伊達博物館建替委員会 会議録

- 日 時 令和5年8月1日(火) 10:30~12:00
- 場 所 宇和島市役所202会議室
- 出席者 [宇和島市立伊達博物館建替委員会委員(順不同、敬称略)]
木村宗慎、森田松次、二宮信彦、宮本直明、三好めぐみ、有間義恒
行定圭一
[事務局]
文化・スポーツ課長
伊達博物館(館長、課長補佐、係長)
- 欠席者 廣瀬孝子、二宮一之
- 議 事 (1) 事業費、維持管理費及び今後のスケジュールについて
(2) 建築実施設計について
(3) 展示実施設計について

次 第

- 1 開会
- 2 議事
- 3 閉会

■会議の記録

1 開 会

(事務局による司会進行)

・ただいまから、第18回建替委員会を開催いたします。

それでは、開会にあたりまして、木村委員長から御挨拶申し上げます。

(委員長挨拶)

委員長

・お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。皆様の御意見を頂戴しまして、実りの多い議事になりましたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

・本日の出席委員、9名中7名、過半数を超え、会議が成立していることを報告させていただきます。

・事務局と新任委員より挨拶。

・それでは議事に移りますので木村委員長、お願いいたします。

2 議 事

(1) 事業費、維持管理費及び今後のスケジュールについて

委員長

・それでは、議事に移りたいと思います。まず事業費について、事務局、説明をお願いします。

事務局

・それでは、まず事業費から御説明いたします。前回の建替委員会において、実施設計途中のものとして48億円で説明させていただいておりました。今回、実施設計のとりまとめに際し、緑色の部分、約48.5億円ということで5千万円の増額となっております。その要因につきましては、右下の青色の部分に記載しておりますが、建築工事費が、物価高騰の影響により34億円から34.5億円に増額したことによります。前回の説明時点からも、物価高騰等は続いており、建築費指数

も 3.6%の増加となっており、単純計算すると、35.2 億円となりますが、設計業者、設計支援業者と減額調整に努め、結果としてこれを下回る 34.5 億円となりました。なお、この 5 千万円増額に伴う、市の実質負担額は、右側中段記載のとおり、10 億 3 千万円から 10 億 3,600 万円と 600 万円の増額となっております。事業費概算の説明については以上です。なお、建築設計の完了検査が終了していないため、金額は現時点のものでございます。

委員長

・事務局から説明があったように、予算が膨大にならないように、また過剰に使わないように、気を付けながら、慎重なプロジェクトにしているという姿勢を評価しているのではないかと思います。

事務局

・事業費は、前回説明からも物価高騰等が続く中、建築費指数の上り幅を下回る 5 千万円の増加となりました。設計事務所においても、上がり幅のことはいつも気にしながら設計をしていただいた結果だと思えます。設計支援業者の方にもクロスチェックをしっかりといただきました。

委員長

・では次に、維持管理費について説明をお願いします。

事務局

・続きまして、開館後の維持管理費の見込みについてご説明申し上げます。これまで説明したとおり、新伊達博物館は学芸部門を直営、事業部門を指定管理者制度の導入を視野に検討を進めてまいりました。この場合における維持管理費は、現段階では 1 億 7,000 万円と見込んでおり、現博物館と比較して約 8,000 万円の増額となっております。増額の主な要因は次のとおりです。まず、規模の拡大に伴う、光熱水費や設備の保守点検等の、いわゆる施設維持管理費につきましては 3,850 万円の増額となります。これらの費用は延床面積の増

加に伴うものです。次に、機能の充実・拡充に伴う増額が4,000万円です。黒字で記載しているものが、現博物館で取り組んでいる業務、赤字が、新博物館において充実・拡充する業務です。学芸員については2名増員し、調査研究はもとより、市民や子どもたちに向けた学習機会の充実を図ります。また、事業部門においては「市民交流の促進」、「伊達文化エリアの観光拠点化」等を実現するため必要な職員を確保するとともに、赤字で記載している様々な事業に取り組みたいと考えております。なお、前回説明より1,000万円減額となっておりますが、より効果的な誘客と、にぎわい創出のため複数のイベントの集約を検討した結果、減額となったものです。

- 委員長
- ・ありがとうございます。何か御意見や御質問があればお願いします。
- C委員
- ・維持管理費について、もっと圧縮できないかとの意見があります。
- 事務局
- ・我々も同じ思いを持っています。ただし、建物設備の維持管理に必要な経費、その機能を発揮するための経費は避けられないものであります。資料を集めて保管して、展示品を見たい人だけに見せるだけでなく、これからの博物館は、新たなまちづくりの拠点となる役割があります。そのための費用、維持管理費が現段階の試算でこれだけ必要だということを説明していく必要がございます。
- C委員
- ・良い考えだと思います。
- D委員
- ・指定管理を導入する最大のメリットはということですか。
- 事務局
- ・主にニーズに応じた迅速・柔軟な事業展開やサービスの提供などが挙げられます。

- D委員
 - ・博物館は貴重な雇用の場だと思えます。宇和島市の人を雇っていただければと思えます。
- 事務局
 - ・市外の業者が指定管理となることも想定されますが、雇用される人は、宇和島や宇和島圏域の方を想定しています。
- 委員長
 - ・業者の選定にあたっては、様々な業者さんの応募を受けて、合理的な事業運営をしてくださる業者を選んでいただきたいと思います。指定管理でよくあるのが、施設の維持管理だけで一生懸命になって、何か新しいことを仕かけたり、学芸部門と組んで何かをするなんていうことはできない、ということにならないようにお願いします。
- D委員
 - ・学芸員の増員は必要だと思えます。また、学芸員について、少なくとも年に1回ぐらいは、研修なり学会なりに行って、知識をつけることができるようにしていただきたいと思います。以前、伊達博物館の学芸員に講演してもらいましたが、非常によく勉強されていました。それと、市民に対しても定期的に、歴史文化に関する講演会を開催していただきたいと思います。
- 事務局
 - ・学芸員の研修や市民向けの講演会は、今後、計画的に進めていきたいと考えています。
- 委員長
 - ・では次に、今後のスケジュールについて説明をお願いします。
- 事務局
 - ・続きまして、今後のスケジュールにつきまして御説明を申し上げます。工事は令和6年1月頃に、現公園のトイレの解体から始まります。トイレ解体後、本体工事に着手します。公園トイレがなくなる期間は、リースで仮設トイレを設置いたします。この仮設トイレは、工事現場等の簡素なものではなく、障がいのある方も利用できるような、しっかりとしたバリアフリートイレを検討しております。附属棟の完成は令和

6 年秋を予定しております。令和 6 年の秋に附属棟部分の引き渡しを受けましたら、トイレ休憩スペース併用を先行して開始する予定です。博物館等の本体は従来通り、令和 7 年の 6 月末前までの引き渡しを予定しております。博物館棟は、文化財保護の観点から、有害物質の低減をさせるため、夏を 2 夏越すことが一般基準になっています。そのため、令和 7 年の夏期と令和 8 年の夏期を越した後、現在の博物館にある資料などを新博物館に運びます。その間、展示制作もございまして、これは設計業者が特命随契で引き受ける予定にはなっていますが、令和 6 年、7 年度の、丸 2 カ年で丸 2 年間の予定でございます。このような準備期間を経て、新伊達博物館の開館は令和 9 年春を予定しております。今後のスケジュールの説明は以上です。

- | | |
|------|---|
| E 委員 | ・ 現博物館の閉館期間が丸 1 年あります。閉館期間が長い要因は何ですか。 |
| 事務局 | ・ 現博物館の開館は少しでも長くしたいと考えていますが、文化財の検品作業やデータベース登録作業などが新たに発生するため、最低 1 年間の閉館期間が必要となります。 |
| 委員長 | ・ 現博物館が閉館中も、宇和島を訪れた人が伊達文化に触れる機会や、新しい博物館ができるんだなというアナウンスのための措置を事務局で検討してください。 |

(2) 建築実施設計について

- | | |
|-----|--|
| 委員長 | ・ では、次に建築実施設計について説明をお願いします。 |
| 事務局 | ・ 建築設計について、説明をさせていただきます。建築設計の概要についてご説明申し上げます。まず 1 ページ目ですが、 |

計画の概要を説明しております。敷地の概要としましては敷地面積、用途区域、建ぺい率、容積率等の諸条件を整理しております。建築の概要といたしましては博物館棟は RC 造（鉄筋コンクリート造）、S 造（鉄骨造）、一部が SRC 造（鉄骨鉄筋コンクリート造）、附属棟につきましては RC 造、S 造となっております。駐輪場につきましては博物館棟に 31 台、附属棟に 9 台の合計 40 台。一般駐車場につきましては建物西側に 19 台、現博物館側に 31 台の合計 50 台分を確保し、それとは別に関係車両駐車場 4 台、身障者用駐車場 2 台を確保しております。面積表として、博物館棟と附属棟あわせて建築面積が 2,827.68 m²、延床面積が 4,539.26 m²、容積対象床面積が 4,169.55 m²となっております。次に配置コンセプトを説明します。2 ページ目では上からの図面で、天赦園、博物館、天赦広場、偕楽園。それから、新たに計画される児童公園、これらの関係性が一目でおわかりいただけると思います。天赦園から宇和島城、これが非常に歴史的な重要な軸線だというふうに考え、博物館を北西側にコンパクトにまとめる中で天赦園から宇和島城を望む視線を重要視して計画されています。これによって南東側になった広場から偕楽園さらに児童公園というふうに公園が繋がっていく大きな緑のネットワークを構築する計画となっております。3 ページでは、いろんなところから敷地に入ることができるということを示しております。天赦広場の回遊動線は様々な利用に配慮するとともに、広場から天赦園に直接アクセスできるようとなっております。4 ページ目からはデザインコンセプトの説明になります。軒は低く抑え、その低い軒を雁行しながら連続させ、背景の山並みに溶け込み、宇和島らしい景観を作ります。また屋根は宇和島城や浜御殿に用いられている入母

屋を採用し、歴史の連綿性を意識する一方、軒庇をシャープにすることでデザインの軽やかさと宇和島の先進性を表しております。5 ページ目は藤棚の紹介です。藤というのは、伊達家に縁のある植物ですが、これを用いて博物館棟と附属棟をつなげ、周囲の緑と、建物を一つに結びつけるような役割を果たしております。その藤棚の下がガラス張りの附属棟になり、広場とその附属棟の親和性も高めるような作り方になっています。6 ページ目が藤棚周辺を鳥瞰した図になります。藤棚は潜淵館の意匠をモチーフとしており、博物館棟の室内にも連続し、新博物館へ誘う役割も果たしております。なお、藤棚の室外部分は南産材と金属を複合させた木格子としております。7 ページ目は藤棚が博物館棟につながった2階部分のテラスから附属棟を臨む絵となっております。宇和島城への眺望も意識し、また広場との連動性も確保できます。8 ページ目は、敷地動線計画です。西側駐車場から博物館エントランスへのアクセスの際には雨に濡れないよう配慮いたします。また博物館には駐輪場を配置しまして、広い世代がアクセスしやすい計画といたします。車の動線は基本的にはワンウェイといたしまして、安全、それから交通状況に配慮した計画というものにしております。できる限り渋滞を引き起こさない計画で考えています。敷地の東側にはバスの乗降場を設けます。9 ページ目は配置計画です。駐車場から建物入口までは、西側駐車場の北側部分から約 66m。元の博物館駐車場の出口からは 113m という距離になっています。天赦広場につきましては面積が 6,754 m²で、ウォーキングコース内の芝生の面積で、3,190 m²の面積を確保しております。右側に移り、旧博物館の跡地に計画しております児童公園が 2,810 m²となっております。一般駐車場の台数は、建物

の西側に 19 台、現博物館側が 31 台、合計で 50 台を確保しております。建物下、いわゆるピロティのところに 6 台、管理車両用駐車場 4 台、身障者車両 2 台で計 6 台になっております。なお、駐輪場の台数は 40 台となっております。10 ページ目は藤棚まわりの配置計画の説明です。附属棟及び研修室を集約させることにより、博物館を閉めているときにも活動が可能な、広場に開かれた集いの場としていきます。このスペースを活かしながら、特に若い世代に対して知的好奇心を触発するような、魅力ある企画イベントの開催に取り組んでいきたいと考えております。また、研修室とキッズスペースを隣接し、子育て世代の積極的な参加を促すとともに、キッズスペースには幼いうちから宇和島の歴史や文化に触れることができる遊具を導入いたします。11 ページ目が研修室から附属棟、広場を臨む図になります。このように広場への開放感を高めております。また様々な活動を支えるために研修室には収納棚を十分に設け、水を使うことも前提に流し台も用意しております。12 ページ目は平面計画です。右側にあるのが、附属棟です。博物館棟は雁行型になっており、様々な目的に利用される研修室が右に飛び出した形になっております。東側の利用者スペースと、西側のバックヤードとのゾーニングを明確にセキュリティラインで分離し、搬入動線も含め管理しやすく、安全性を確保できる平面計画としております。13 ページ目が断面計画です。津波で浸水した場合でも収蔵品に影響が出ないように、展示室や収蔵庫は 2 階に設置しています。緑で囲った部分です。展示収蔵エリアの空調設備類も 2 階に設置することで被災したとしても、いち早く収蔵環境を整えることができます。2 階の床レベルは現況地盤から 5.8m 程度上がっており、浸水レベルがブルーで示しており

ます。浸水の危険レベルよりも上に床の高さを設定しております。国道の地盤面に合わせて 80 cm 程度の盛り土を行って、この高さを確保することとしております。14 ページ目からは内装のデザインを紹介していきます。機能的でありながらも、地元の素材を生かして、地域を象徴するようなエントランスホールを考えております。天井の意匠は、先ほど説明いたしました外の藤棚が連続するようになっております。木材は南予産材を使用いたします。特に受付カウンターには宇和島藩の藩造林を利用します。ほかにも 2 階の企画展示室まわりの壁面には泉貨紙を利用するなど、宇和島ゆかりの素材を用い、伊達博物館らしいデザインとしております。15 ページ目は 1 階の常設展示室の風景です。実際には展示物がありますが、ここではスケルトンで表しています。天赦園に開かれており、歴史を感じながら展示をご覧くださいことをイメージしました。16 ページ目は 2 階の企画展示室の様子です。ここでは、主役はあくまでも展示品なので、シンプルなデザインとしております。17 ページ目は附属棟のカフェ休憩スペースです。公園側はガラス面とし開放感のある意匠となっております。博物館や美術館では総合的病害虫管理の観点から飲食は極力避けるべきですが、附属棟は離れておりますので飲食も可能となります。18 ページ目は構造計画です。2 階は先ほど説明いたしましたように、地盤面からプラス 5.8m に床を設定して、津波の心配のない高さを確保することを説明しましたが、構造としましても周辺の一般的な建物と比較し 1.25 倍の構造耐力を設定し、地震や津波に備えます。デザイン性と強度を両立させるために S 造と RC 造を使い分けております。なお、周辺敷地の地盤は調査により把握できており、支持地盤まで基礎杭で強固に支えるようにしております。19 ペ

ージになりますが、設備の計画です。今や当たり前になってきましたが、LED 照明を採用します。また限られた範囲ですが太陽光パネルも設置し、自然エネルギーも活用しております。また、適切な収蔵環境を整えるため、温湿度管理の徹底を実現できる空調計画としております。20 ページ目以降はパース図等、参考の資料となっております。以上で建築設計の概要説明を終わります。

委員長

・ありがとうございます。何か御質問や御意見ありましたら、お願いします。

F 委員

・バスの駐車場はどこになるのですか。

事務局

・公園スペースを広く確保するため、バスの駐車場はなく、回転場を設置します。バスは回転場と近隣駐車場を連携させたショットガン方式で対応いたします。なお、新博物館オープン直後は、現在の博物館の駐車場を使用することが可能です。

G 委員

・物販スペースはありますか。

事務局

・物販スペースは、受付カウンター付近の「うわカーゴ」を使って設置します。

H 委員

・児童公園はいつできるのですか。

事務局

・令和 9 年度以降の整備を予定しています。現在設置している遊具につきましては、工事着工時に芝生広場に仮移設を行います。

委員長

・広場側に対して建物が全面ガラス張りになっています。日差し対策はどうなっていますか。

事務局

・日差し対策として、ロールスクリーンの設置を予定しています。

- | | |
|-----|---|
| 委員長 | ・研修室に水回りが設置されていますが、目隠しができるようなパーテーションがあれば良いと思います。デザインを含めて事務局で検討してください。 |
| H委員 | ・博物館棟の中で、休憩用の背もたれ付きの椅子はありますか。 |
| 事務局 | ・現時点で設置は予定していませんが、そういうスペースがあると良いと思います。 |

(3) 展示実施設計について

- | | |
|-----|---|
| 委員長 | ・次に展示実施設計について説明をお願いします。 |
| 事務局 | ・続いて、館展示設計の概要を御説明を申し上げます。まずは1ページ目をご覧ください。「実施方針と期待される効果」ということで、大きく4つ掲げております。1といたしまして「文化財を守り伝える」、2といたしまして「対象は宇和島全域」、3「ふだん使い憩いの場」、4「市民みんなで活動」。これら4つのベースを元に、宇和島市の活性化の知恵袋として、地域振興、ブランド力向上に寄与します。次に施設構成です。公開承認施設の基準に基づいて、資料と利用者動線は明確に区分したうえで、気軽に入りやすく、ふだん利用できる施設を目指します。図では、赤と青の矢印に分けております。赤については資料の搬入動線を示しており、青については来館者の動線を示しております。次の3では、展示の役割と観覧者の気持ちの流れということで、整理しております。展示の冒頭に、気持ちを引き込む、興味を強く持つことによって、そのあとの動線、流れによって歴史文化に興味を一層 |

深めてもらうような構成としております。まずはエントランスから入っていただいて、ふだん使いの気軽な視点で楽しんでいただく。それを窓口として今度は歴史文化を詳しく知って、興味を深めていただくような流れを構成しております。さらに2階の企画展示室に上がっていただきますと、本物の魅力に触れ、より理解を深めていただく、という流れです。観覧によって宇和島の町への愛着を深めていただいたうえで、エントランスにもどってきて、まちに送り出す流れ、フィールドは宇和島市全域がターゲットですから、そのフィールドへ飛び出して行く気持ちをさらに高めて外に出てもらうというような、大きなストーリーのようなものを演出いたします。4では展示の基本的な考え方について説明しています。3つの分かりやすい言葉で整理してございます。まずは「入りやすさ」です。明るく開放的で、あまり格式ばらないという、雰囲気を目指しております。それから「滞在しやすい」こと。憩いができる、座ることができる、市民がちょっとした勉強や本も読むこともできる。当然ながら、バリアフリーにも配慮して、広々と動きやすい空間を目指します。それから「分かりやすさ」です。誰もが使いやすい展示というのを目指していきます。途中どこからでも入りやすい、展示をどこから見ても興味を持ちやすいという、そういった分かりやすい動線というものも整理します。あとは体験性です。直感的に体験していただいて、興味を持っていただくことを意識しております。2ページ目が展示の全体像になります。先ほどの構成を具体的な絵で見ると、こういった形になってございます。1階の常設展示で親しみを持っていただいて、2階の本物の魅力で理解を深めるといった大きな流れになります。エントランスから入っていただいて、まず興

味を引き付けるコーナーとして、「うわ！じまん」。これはのちほど説明いたします。それを経て、メインでもある常設展示室、先人ロード、こちらを構成しております。2階に上がっていただくと、本物の魅力に触れていただく企画展示室を設けております。眺望として天赦園への景観、それから1階では公園とのつながりと、いうのを存分に感じていただいて、宇和島の町へ流れていく、という構成になっております。また、本館内にはキッズコーナーを設けております。小さな頃から宇和島の歴史文化に親しめるような、そういったアイテムで構成していきます。なお、共通事項といたしまして、館内や展示の音声ガイド、多国言語化に対応するためナビレンスを導入いたします。視覚障害者への音声ガイドはもとより、33カ国語にも対応できます。ナビレンスとはスペイン発祥のツールですが、すでに九州国立博物館をはじめとする国内での導入実績もあります。3ページ目では1階の主な展示機能を説明しています。まずは「うわ！じまん」です。可動式のカーゴを用いまして、宇和島の魅力を語るコーナーを設けます。またこのカーゴでは、例えば武器や武具といったものを実際に触れて、体験性を持たせていくことや、販売コーナー等で活用することを想定しております。次に「うわぶたい」です。ロビーと展示室をつなげる空間に、段畑をイメージした舞台を設け、来館された皆さんが滞在できるスペースとします。ここでは休憩することはもちろん、ちょっとした調べ物や、読書等もできることを想定しております。次に、常設展示のメインとなります「先人ロード」の説明になります。歴史を駆け抜けた先人たちをとおして、宇和島がたどった道を知るエリア、と位置づけます。優れた人を育み、優れた人から愛された宇和島の魅力をご紹介します。ま

た旧宇和島藩のみならず、旧吉田藩についてもしっかりと展示の対象としていきたいと思えます。4 ページは 2 階の企画展示室の説明です。基本的な考え方としては、文化財の魅力や情報を余すことなく見せることのできる、多彩な展示空間を目指します。「伊達文化の体現」を中心としつつ、宇和島市全域の歴史文化を扱う構成といたします。資料保護、災害対応の観点で申し上げますと、将来的には公開承認施設として申請できる基準を整え、安心して安全な空間を構築して参ります。また、展示内容につきましては、今までの展示ノウハウを継承しながらも、今までにない多様な特別展および企画展が開催できるような構成としていきたいと考えております。そのための可変性についても、企画展のテーマや規模、資料の性質によってレイアウトを変えられる、汎用性の高い空間としております。5 ページ目は収蔵庫の説明になります。公開承認施設の基準に基づき、安定した環境で安全に保管できる収蔵庫としております。現在の博物館で所蔵している資料、寄託を予定している資料も含め、精密にボリューム調査を行いました。その調査結果に基づき、資料の性質ごとに最適な収納方法や配置場所を定めました。2 層式になっている積層棚や、古文書については可動式の棚を用いるなどして、無駄なく、効率的な収蔵計画を立てております。なおこれにより、将来増加分のスペースをそれぞれ約 1 割ほど確保することができております。今後は展示製作業務に移ってまいります。昨年度にまとめました展示構成案に沿って作成してまいります。展示設計の説明は以上になります。

委員長

・展示設計内容について、何か御意見、御質問ありますでしょうか。

J 委員

・新博物館の展示のいわゆる売りは何ですか。

- 事務局
- ・大型スクリーンを使った映像コンテンツや、手に触れることができる模型展示などは、これまでになかった新しい展示になります。
- J 委員
- ・博物館に入ってきたときに、何かおっと思うような甲冑を玄関に置くとか。その辺はもうちょっと考えていただきたい。
- 委員長
- ・委員さん御指摘のとおり、例えば徳川美術館のエントランスホールには、レプリカですが鎧がポンと置いてあって分かりやすい。新博物館においても、レプリカでもいいので、何か鎧の全体像が見えるような展示をしていただきたい。このような意見があったことを展示の業者さんに伝えて、今後、コンテンツを決めていくときに一つの意見にしてください。
- K 委員
- ・ぜひクラウドファンディングをやって欲しいと思います。お金を出した人は必ず来ますから。これによって宇和島に人を呼び込むことが大切だと思います。展示に係る目的で使われてはどうでしょうか。
- J 委員
- ・ふるさと納税でも、例えば、寄附額にもよりますが、1年間入館料を無料にするとか。
- 委員長
- ・ありがたく素晴らしいお申し出だと思います。博物館の施設拡充に対して、クラウドファンディングなどで参加したいという話になった時、実務的な受け皿は可能なんですか。
- 事務局
- ・可能だと思います。
- 委員長
- ・大切なのは、委員さんがおっしゃったように、お金を出した人にとってみたら、そこに対する別の愛情が生まれて、伊達博物館に行ってみようとなることだと思います。各地の美術館や博物館にあるように、寄付者の氏名をプレートに記載して設置するなど工夫されたらどうでしょうか。御検討をお願いします。

委員長

- ・その他、御意見ございませんでしたら本日の委員会は、以上で閉会といたします。